

令和3年8月31日
東北運輸局

事故ゼロを目指して！大型車の車輪脱落事故防止キャンペーンの実施

～ 東北の大型車の車輪脱落事故を防げ！！ ～

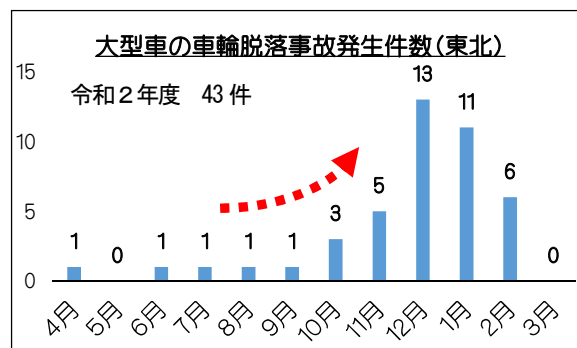
東北運輸局管内の大型車のホイール・ナット緩み等による車輪脱落事故が増加している状況を踏まえ、9月1日から東北運輸局管内の関係者が一丸となって「大型車の車輪脱落事故防止キャンペーン」を実施します。

1. 東北運輸局管内の令和2年度大型車※の車輪脱落事故の発生状況（速報値）

（詳細は「別紙」参照）

- ✓ 事故発生件数は43件（過去最多となった前年度比5件減）。
- ✓ 冬期（11月～2月）に多く発生。特にタイヤ交換作業が集中する11月に交換したトラックの事故が多い。
- ✓ 車輪脱着作業後1ヶ月以内に脱落が多く発生し、車輪脱落箇所は左後輪に集中。

※ 大型車とは、車両総重量8トン以上のトラック又は乗車定員30人以上のバス



※令和元年度 48件（過去最多）

出典：自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

2. 大型車の車輪脱落事故防止キャンペーンの実施

東北運輸局では、大型車の車輪脱落事故防止の早期かつ確実な実施を図るため、関係業界の協力のもと、「大型車の車輪脱落事故防止キャンペーン」を実施します。

【実施期間】令和3年9月1日～令和4年2月28日

【主な実施項目】

- ✓ 運送事業者等に対する事故防止対策の周知・指導
- ✓ 運送事業者において、
 - ・ 大型車のホイール・ナットの緩みの総点検実施
 - ・ タイヤ交換時の作業管理表を使用した正しいタイヤ交換作業実施
 - ・ トラックのホイール・ナットへのマーキング等、日常点検でのホイール・ナットの緩みの点検を重点的に実施
- ✓ 東北運輸局作成の啓発チラシ（「参考」参照）による周知活動を展開する他、関係団体の協力のもと、傘下事業者等への周知活動を展開
- ✓ 整備管理者研修等、あらゆる研修・講習において車輪脱落事故防止に係る講習を実施
- ✓ 令和3年3月「自動車の点検及び整備に関する手引き」の改正概要について周知
- ✓ 東北運輸局ホームページに車輪脱落事故防止に関する特別ページを開設（今後の詳しい取り組み内容と状況は同特別ページをご覧ください。）



[特別ページQRコード]

〈問い合わせ先〉

東北運輸局自動車技術安全部 保安・環境調整官 高橋、鹿島
TEL:022-791-7534、FAX:022-299-8872

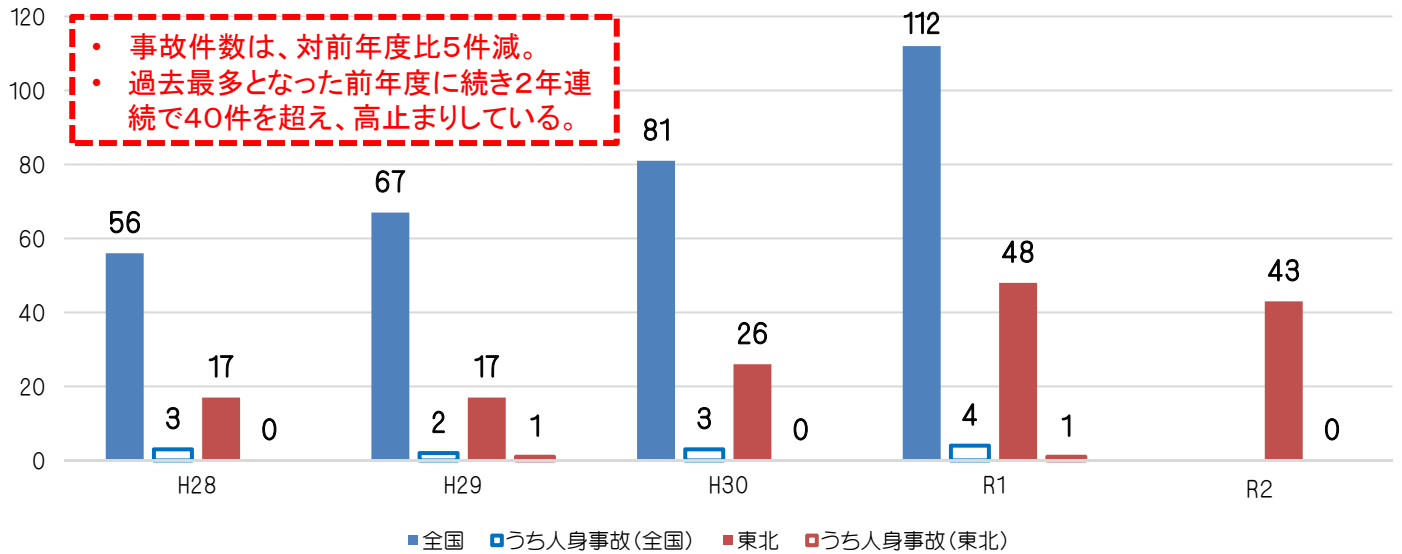
<添付資料>

別紙 令和2年度大型車の車輪脱落事故発生状況（速報値）

参考 大型車の車輪脱落事故防止のための啓発チラシ 東北6県バージョン（東北運輸局作成）

東北運輸局管内車輪脱落事故発生状況（令和2年度）【別紙】

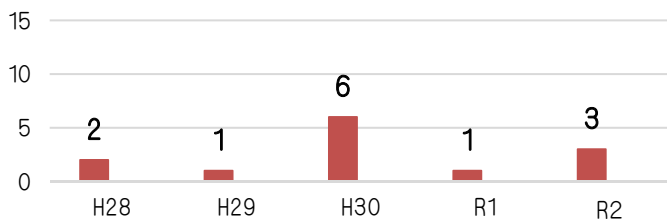
大型車の車輪脱落事故※発生件数の推移



※ 車両総重量8トン以上の自動車又は乗車定員30人以上の自動車であって、車輪を取り付けるホイール・ボルトの折損又はホイール・ナットの脱落により車輪が自動車から脱落した事故

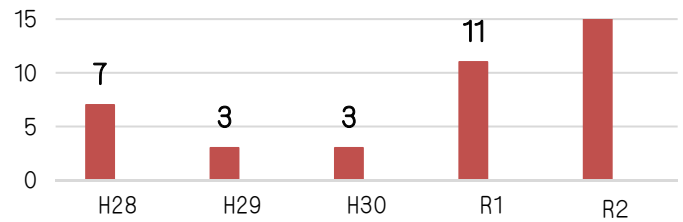
青森

■青森発生件数 ■うち人身事故(青森)



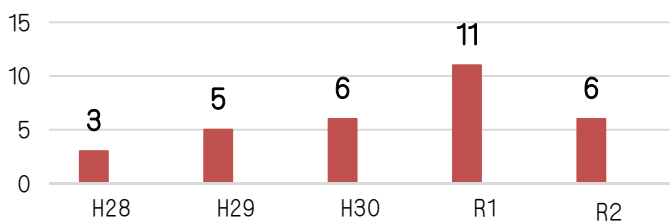
岩手

■岩手発生件数 ■うち人身事故(岩手)



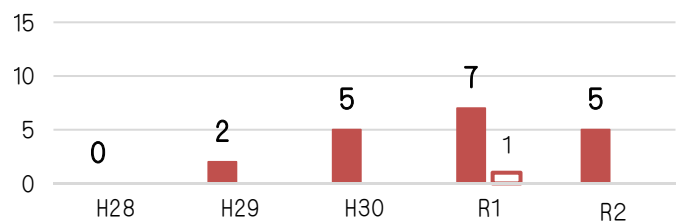
宮城

■宮城発生件数 ■うち人身事故(宮城)



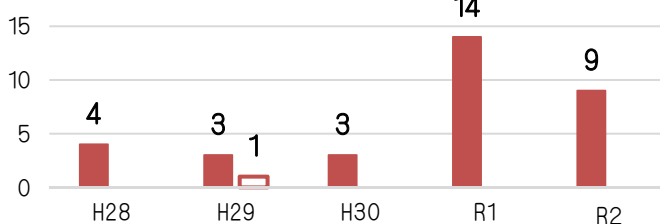
秋田

■秋田発生件数 ■うち人身事故(秋田)



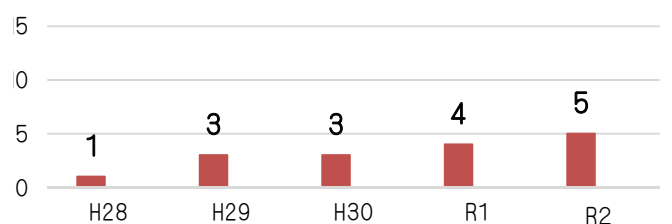
山形

■山形発生件数 ■うち人身事故(山形)



福島

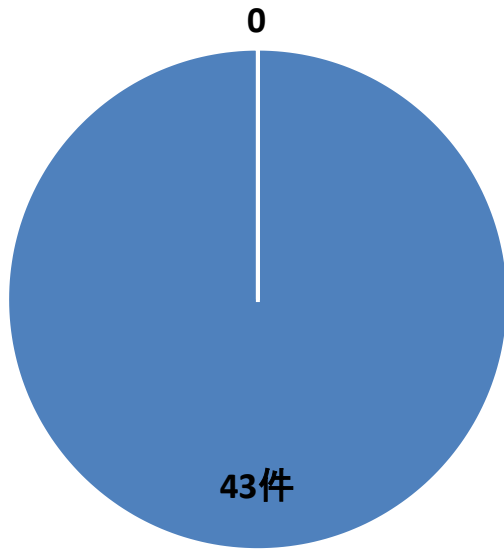
■福島発生件数 ■うち人身事故(福島)



東北運輸局管内車輪脱落事故発生状況（令和2年度）

業態別（大型バス・大型トラック）

n=43

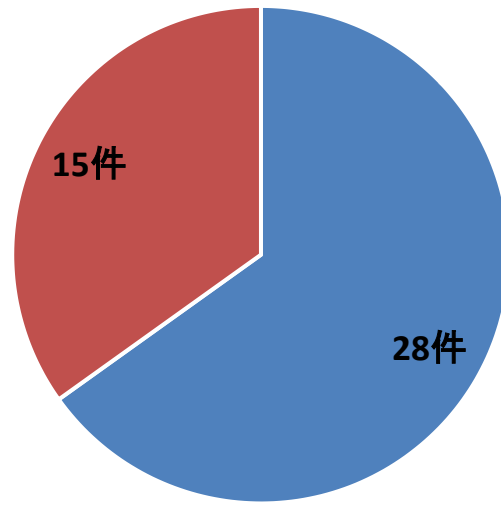


■ バス ■ トラック

・令和2年度の発生はトラックのみ。

事業用・自家用別

n=43



■ 事業用 ■ 自家用

・対前年度比は事業用9件減、自家用4件増、自家用トラックの発生が増加傾向。

車輪脱着作業から事故発生までの期間別件数

n=43

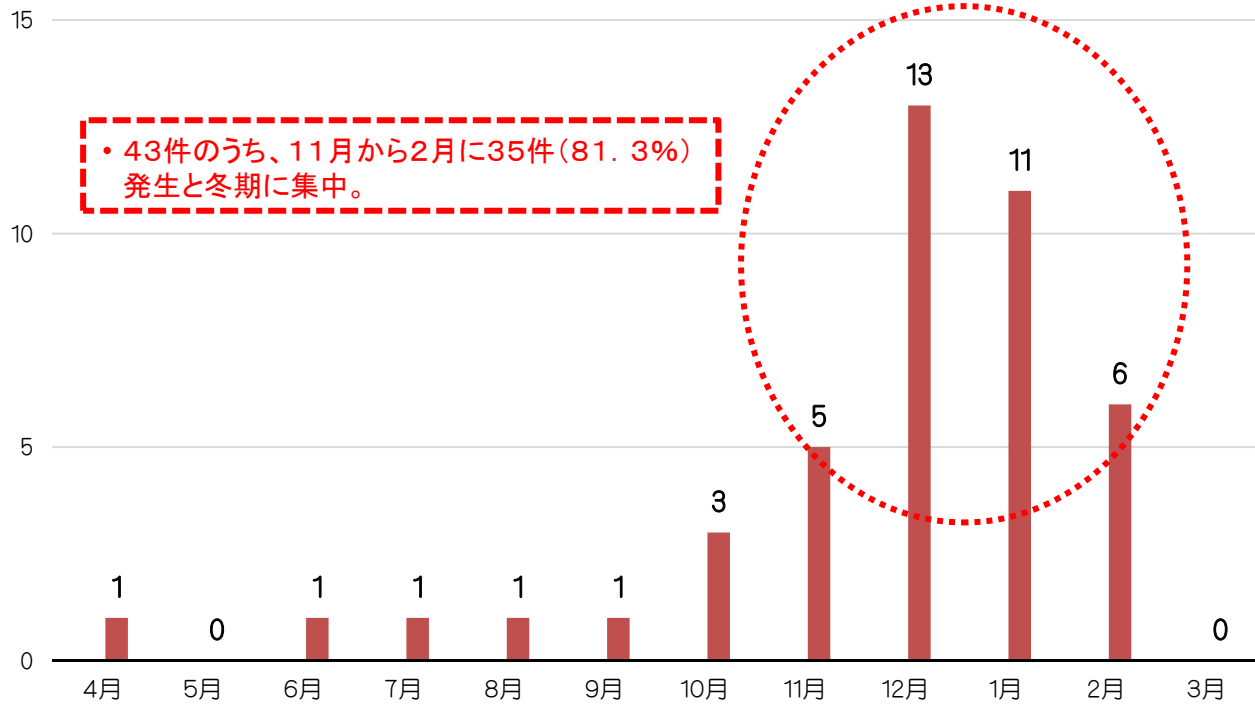


・43件のうち、車輪脱着作業後1ヶ月以内に発生したものが22件（51.1%）。

東北運輸局管内車輪脱落事故発生状況（令和2年度）

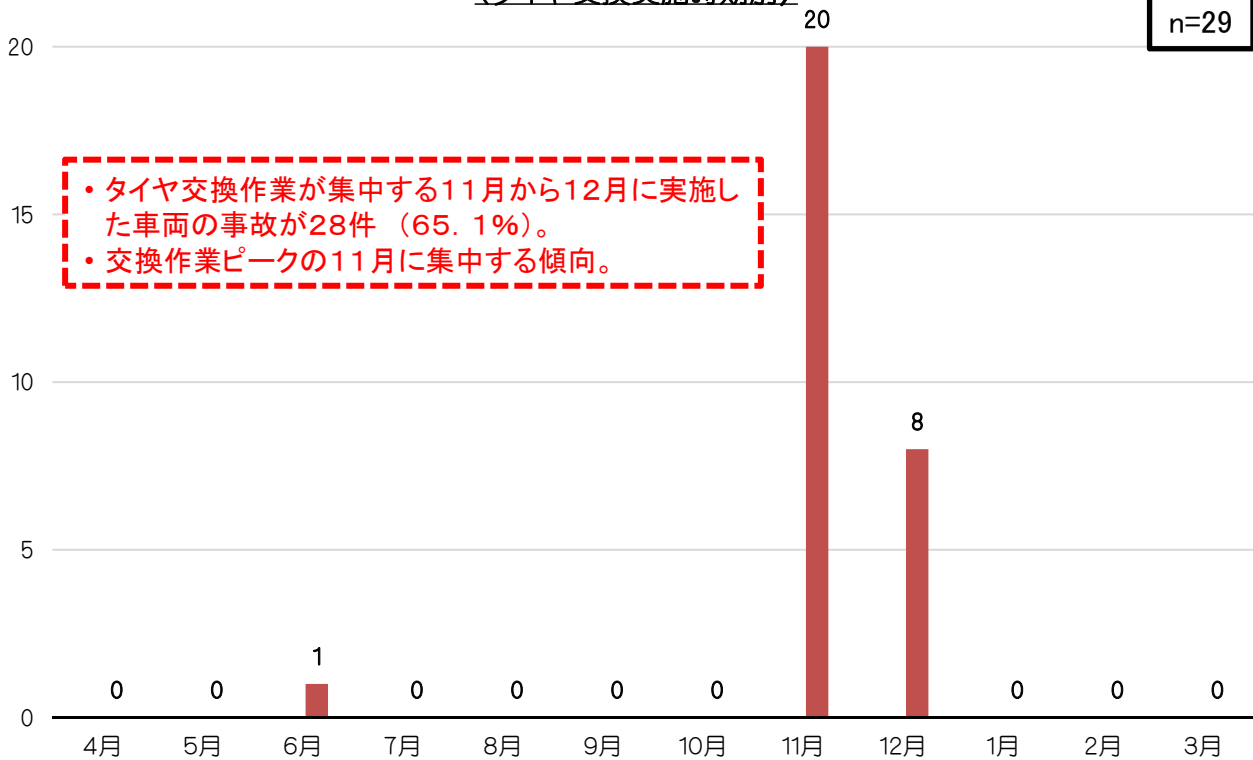
発生月別車輪脱落事故発生状況

n=43



車輪脱落直前の3ヶ月以内に「タイヤ交換」を実施した車両による事故件数 （タイヤ交換実施時期別）

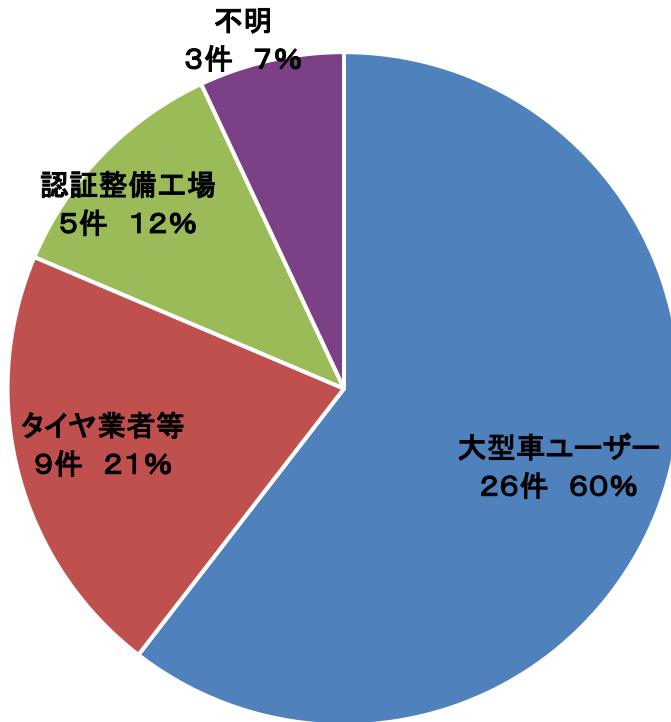
n=29



東北運輸局管内車輪脱落事故発生状況（令和２年度）

タイヤ脱着作業実施者別

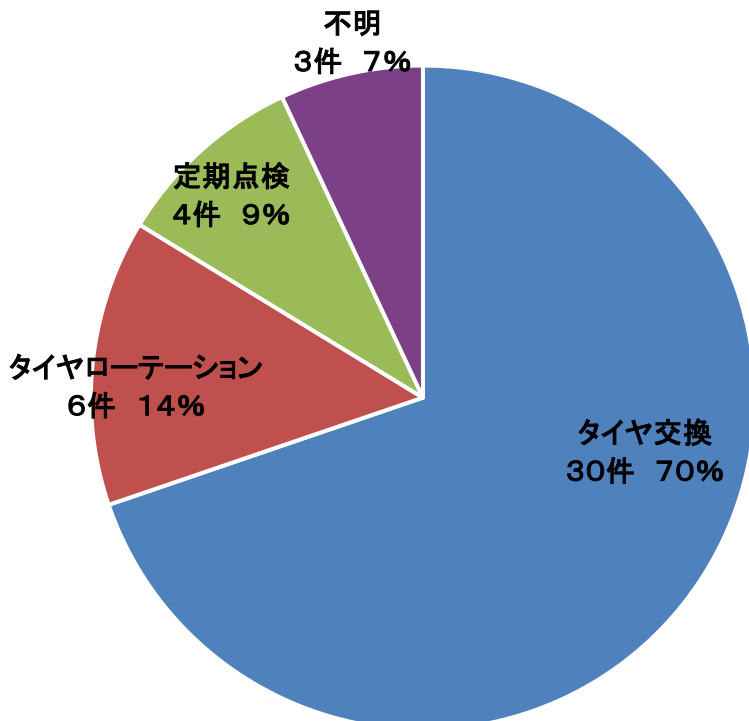
n=43



- ・ 大型車ユーザーの交換によるものが半数以上を占める傾向。
- ・ 大型車ユーザーの交換が前年度50%であったことから、増加傾向。

タイヤ脱着作業内容別

n=43



- ・ タイヤ交換・タイヤローテーションが大半を占める傾向。
- ・ タイヤ交換が前年度46%であったことから、増加傾向。

●タイヤ交換

- ・ 通常タイヤから冬用タイヤへの交換
- ・ 摩耗したタイヤの交換 など

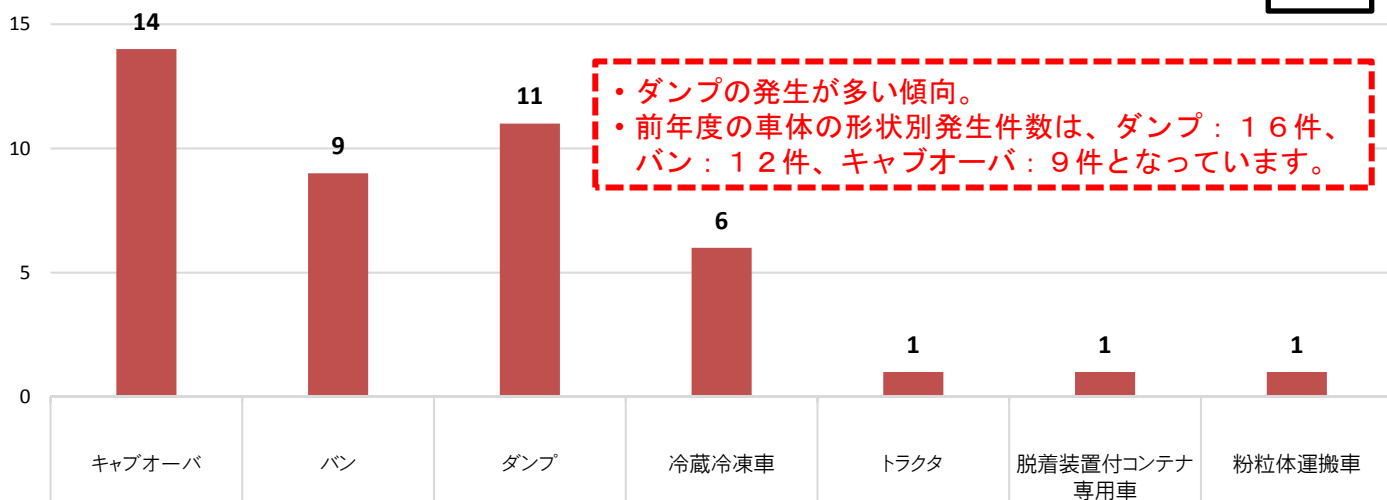
●タイヤローテーション

- ・ タイヤの摩耗が偏ることを防止するため、前後・左右のタイヤを入れ替える

東北運輸局管内車輪脱落事故発生状況（令和2年度）

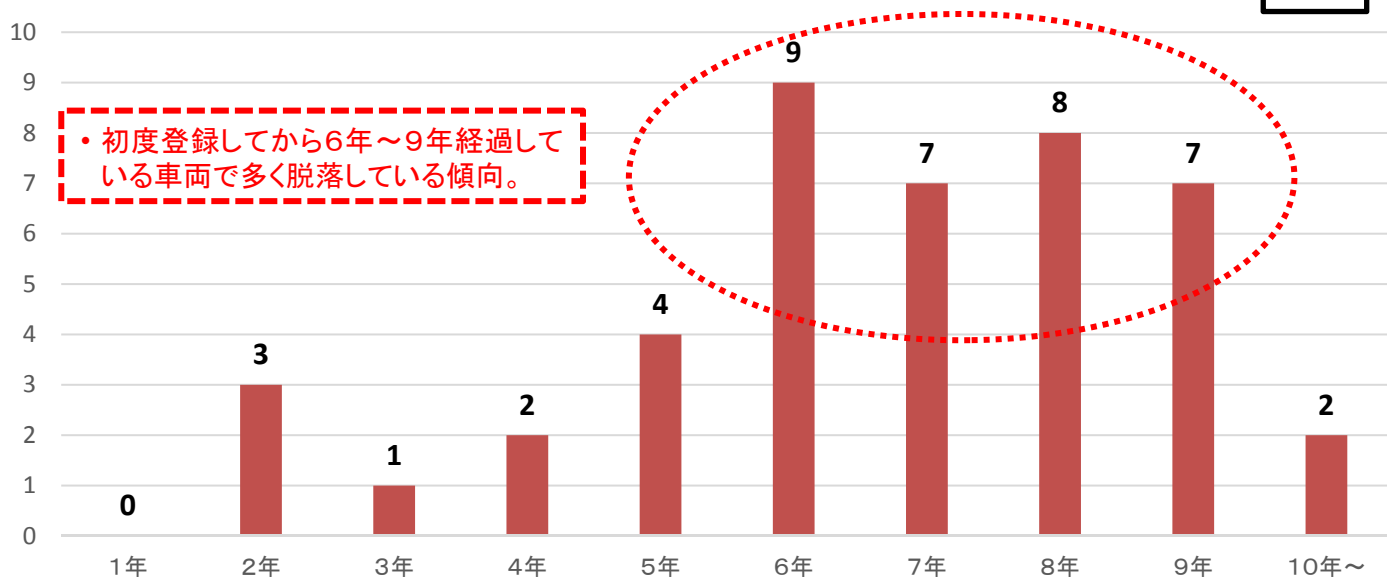
車体の形状別発生件数

n=43



登録年から事故発生までの車齢

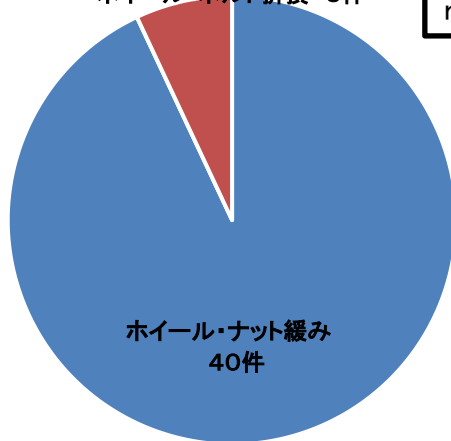
n=43



タイヤ脱落時の原因

ホイール・ボルト折損 3件

n=43

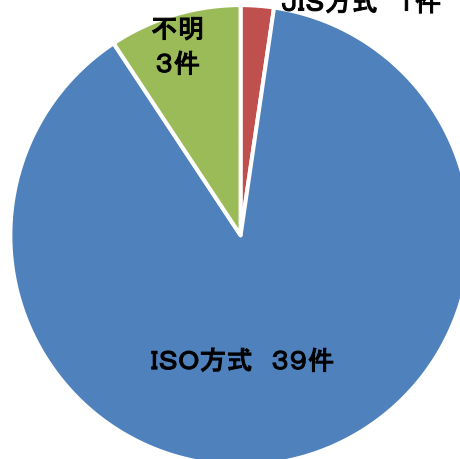


・ホイール・ナットの緩みによるものが大半を占める傾向。

締め付け方式

JIS方式 1件

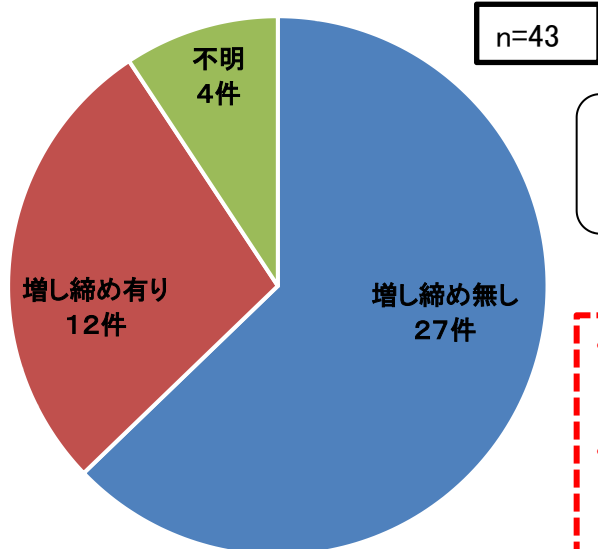
n=43



・締め付け方式はISO方式によるものが大半を占める傾向。

東北運輸局管内車輪脱落事故発生状況（令和2年度）

脱着作業後の増し締め実施の有無



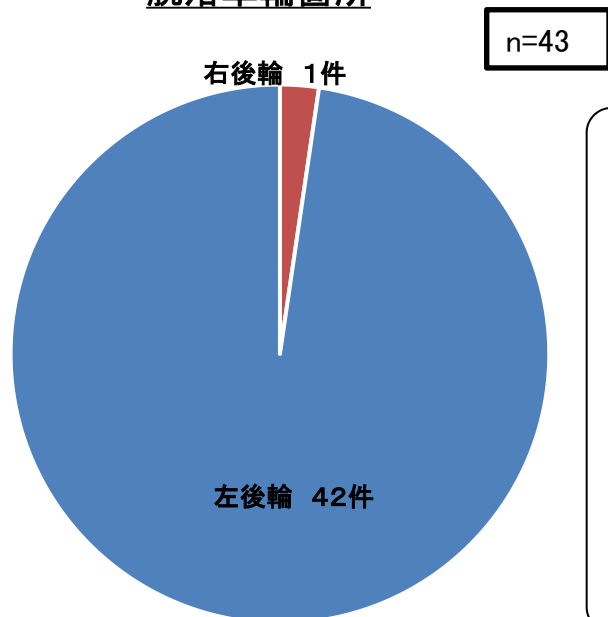
- 「増し締め有り」12件について、脱落の推定要因（重複有り）
- ・ ディスクホイール、ホイール・ボルト等の劣化・摩耗：3件
 - ・ ネジ部、ハブ面の錆・汚れ等：10件

- ・ 「増し締め有り」12件は、大半が大型車ユーザー自ら車輪脱着作業を実施し、自ら増し締めも実施しているが、半数以上が増し締め作業時にトルクレンチを用いていない。
- ・ 「増し締め有り」12件は、車齢6年以上経過している車両が大半を占めており、経年劣化の影響もあり、ネジ部、ハブ面の錆、汚れ等の除去不十分により、適正な締付力が得られず脱落に至ったと推定。

【対策の方向性】

- ・ ネジ部・ハブ面の錆・汚れ等の清掃作業を確実に実施
- ・ 劣化・摩耗が進んだホイール・ボルト、ホイール・ナット等は早めに交換

脱落車輪箇所



左輪タイヤの脱落割合が高いことの推定原因

- 左輪タイヤが多く脱落する原因については、以下の可能性が考えられる。
 - ・ 右折時は、比較的高い速度を保ったまま旋回するため、遠心力により積み荷の荷重が左輪に大きく働く。
 - ・ 左折時は、低い速度であるが、左後輪がほとんど回転しない状態で旋回するため、回転方向に対して垂直にタイヤがよじれるように力が働く。
 - ・ 道路は中心部が高く作られていることが多いことから、車両が左（路肩側）に傾き、左輪により大きな荷重がかかる。
- 前輪は、ホイール・ボルト緩み等の異常が発生した場合には、ハンドルの振動等により運転手が気づきやすい。

・ 脱落箇所は左後輪の集中。

大型車ユーザーの皆様へ

事故ゼロを目指して！

大型車の車輪脱落事故防止キャンペーンの実施

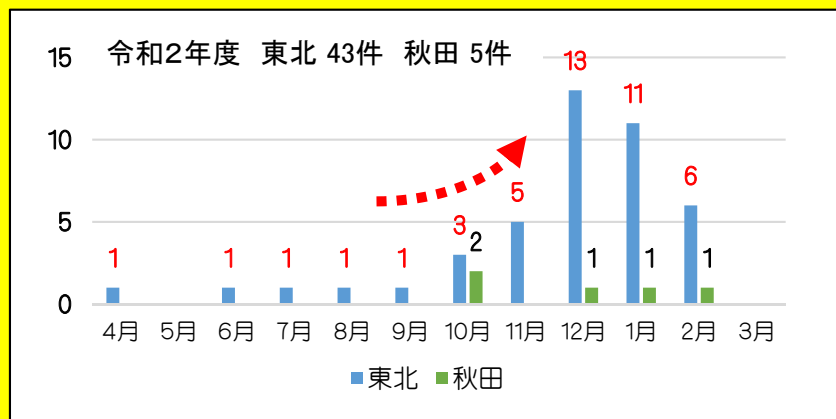
～秋田の大型車の車輪脱落事故を防げ！！～

大型車※のホイール・ナット緩み等による車輪脱落事故が増加している状況を踏まえ、東北地域では令和3年9月から「**大型車の車輪脱落事故防止キャンペーン**」を実施します。

※大型車とは、車両総重量8トン以上のトラック又は乗車定員30人以上のバス

1. 秋田運輸支局管内の車輪脱落事故の発生状況(令和2年度速報値)

- ・事故発生件数は**5件**(過去最多となった前年度比2件減)
- ・冬期(11月～2月)に多発
- ・特に**タイヤ交換作業が集中する11月の交換車両**に多発
- ・車輪脱着作業後1ヶ月以内に多発
- ・車輪脱落は**全て左後輪**
- ・全てが**トラック**による事故



※令和元年度 東北 48件(過去最多) 秋田 7件(過去最多)

出典：自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

2. 東北地域における車輪脱落事故の傾向と対策の方向性

50～100km走行後に規定トルクで**増し締めを確実に実施**することは、当然ですが、東北地域では**車齢6～9年の車両**で多発している傾向から、

【対策の方向性】

- ・ネジ部・ハブ面の錆・汚れ等の清掃作業を確実に実施
- ・劣化・摩耗が進んだホイール・ボルト及びホイール・ナット等は早めに交換
(錆や汚れを落とし、ネジ部に**エンジンオイル**などを**薄く塗布**してナットを手で回した時、スムーズに回転しない場合は、ネジ部に異常があります。)

・東北運輸局ホームページに車輪脱落事故防止に関する**特別ページ**を開設 ※今後の詳しい取り組み内容と状況は同特別ページをご覧ください。

特別ページ
QRコード



〈問い合わせ先〉

国土交通省東北運輸局秋田運輸支局

検査・整備・保安部門

TEL:018-863-5811(ダイヤルイン「2」)

正しい作業が、防ぐ事故。

徹底しよう! 車輪脱落を防ぐ、4つのルール

お きまりのトルクで
きちんと 締め付けて



規定のトルクで確実な締め付けを

ち ゃんと増し締め
交換後



50~100km走行後に、しっかり増し締めを

な (ナット)
っと見て ボルト触って
さあ出発!



一日一回の日常点検を

い や待てよ? ボルトと
ナットは適正か?



ホイールに適合したボルト、ナットを



左後輪に注意!

車輪脱落の多くが、気がつきにくい「左後輪」で発生しています。左後輪の点検は重点的に行ってください。



ホイールやホイールボルトの錆に注意!

ホイールやホイールボルト、ナットの著しい錆によると思われる車輪脱落が発生しています。著しい錆のあるホイールやホイールボルト、ナットは、交換してください。

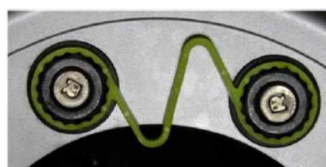


《令和3年3月「自動車の点検及び整備に関する手引き」改正》

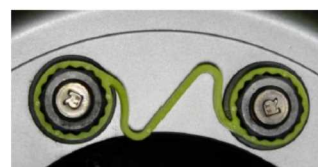
ホイールナットマーカ等を活用した新たな点検方法や車齢4年以上の車両に車輪脱落事故が多く発生していることを踏まえ、ホイール・ボルト及びホイール・ナットの交換目安等が規定されました。



ホイール・ナットへのマーキング例



緩みなしの状態



左右のホイール・ナットが緩んだ状態

ホイールナットマーカの装着例

(ホイール・ナット回転指示インジケーター (ISO方式) 装着の場合)